大阪インターナショナルチャーチ：　　ブルース・アレン牧師
ローマ人への手紙 9 章 15-33 節　New Living Translation (NLT) & New American Standard Bible (NASB)

2024/03/17

説教

説教：義認： **神、選ぶお方**

OIC の皆さん、お早うございます。
義認とは、私たちはもはや罪がなく、イエスの十字架上の死に基づいて義とされ、私たちの永遠の赦しを買い取るという神の宣言です。 私たちの赦しは、神の御計画に従っています： 時が始まる前 – 時の中で – 時が過ぎ去った後もです。 先月、私は聖書が、時が始まる前から私たちクリスチャンは 「選ばれた者 」であったと、どのように私たちに確信させてくれるかを明らかにしようとしました。

2 月 18 日、私はローマ人への手紙の最後の段落で、「選ばれた者」を、モーセや羊飼いたち、そしてユダヤ人と異邦人のクリスチャンなど、神が好意的に見てくださる人々と結びつけました。 今日、私はパウロがしたように、宇宙の主権王である神が、すべての人、神が選んだ人、選ばなかった人を創造されることについて、さらに詳しく述べたいと思います。

いつものように、ローマ 9 章を参照し、聖書の他の聖句によってパウロの発言の多くを説明することにします。 **教会における最大の異端は、聖書を聖書で証明しない神学や教義でした。**
ですから、**神の真理を保証するために**関連性を持たせることを我慢してください。 もし私が聖書のある部分から別の部分へとさまよっているようであれば、どうか一緒にさまよってください。 ある聖句から別の聖句へのつながりを一緒に考えてください。 私のメッセージを*神の御言葉をめぐる大冒険*として見てください。
(ローマ 9 章 15 節)で、神がモーセに語った、地上における神の主権に基づく人々の選択について、もう一度確認してみましょう：「*神はモーセに、「わたしは自分のあわれむ者をあわれみ、自分のいつくしむ者をいつくしむ。」と言われました。*」
パウロはここで、神とモーセの会話を引用しています **(出 33 章 15-20 節)** ：「*それでモーセは申し上げた。「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。 16 私とあなたの民とが、あなたのお心にかなっていることは、いったい何によって知られるのでしょう。それは、あなたが私たちといっしょにおいでになって、私とあなたの民が、地上のすべての民と区別されることによるのではないでしょうか。」17 主はモーセに仰せられた。「あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたはわたしの心にかない、あなたを名ざして選び出したのだから。」18 すると、モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」19 主は仰せられた。「わたし自身、わたしのあらゆる善をあなたの前に通らせ、主の名{わたしである}で、あなたの前に宣言しよう。わたしは、恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」*

上記の箇所 **(出 33 章 15-16 節)** において、モーセが神に対して、神が地上の人々、たとえ神の敵であっても、その賛美によって栄光を受けるように、神の好意を示してくださるよう、賢明に懇願したことに注目して欲しいです。 モーセは、神の栄光の啓示を含む神の恩恵だけが、イスラエルを他の国々から引き離すことができることを知っていました。 モーセと神との関係は個人的なものだったのです。 主は、***私はあなたの名を知っている***と言われました。 OIC のクリスチャンの皆さん、神は皆さんの名前を知っておられます！ モーセは、主が自分を好意的に見ておられると

言われるのを聞き、神の栄光をもっと見たいと、神の臨在さえも見たいと願いました。 そしてモーセは神の栄光をたくさん見てきました。

モーセは、神に選ばれた民イスラエルをエジプトのファラオの束縛から解放するための、神による数々の奇跡を目の当たりにし、それに参加しました。 ここでのポイントは、モーセが神との正しい立場を利用して、より多くの祝福を受けることを求めることをためらわなかったということです。 このことは、新約聖書にも次のように記されています。 **(2 ペテロ 3 章 18 節/NLV)** ：「*キリストが与えてくださる慈愛の中で**成長しましょう**。私たちの主イエス・キリストをもっとよく知りなさい。主は救ってくださる方です。今も、そして永遠に、主がすべての輝く偉大さ｛ドクサ／ギリシャ語、栄光｝を持っておられますように。そうしてください。*」ここに、ペテロの教訓的な言葉があります： 愛と好意のうちに成長しなさい、イエスをもっとよく知るようになりなさい、イエスは救ってくださいます、輝く偉大さ、栄光はすべてイエスのものです。 モーセが神との関係にどれほど満足していたとしても、彼は神をもっと知りたかったのです。

私がこれまで説いてきたように、神はご自分の子供たちが神の栄光をもっと経験するようにと求めるのを不愉快とは考えておられないのです。あるいは、神の栄光の啓示を受けずにイエスを信じる方が良いと思うかもしれません。 そう、イエスが **(ヨハネ 20 章 29 節)** で言われたように、信仰に入ることです：「*イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。*」しかし、私は、**イエスを見ずにすでに信じるようになったクリスチャンたち**ですが、しかし同時に、私たちの両親、友人、隣人、大阪、そして日本のために、**キリストにある親愛なる兄弟姉妹のことを思い出して欲しいです**。ここ日本では、モーセが **(出 33 章 16 節)** で神に言ったように：「*あなたが私たちの中にいてくださることによって、あなたの民と私は、地上の他のすべての民と区別されるのです。*」繰り返しますが、あなたの人生に神の栄光を求めることは、クリスチャンになることではなく、**すでに生まれ変わったクリスチャンとして、自分が選び主である神に選ばれたことを知ることなのです。**

教訓　その 1　 パウロのローマ人への手紙、特に 8 章が教えているように、神はご自分が選んだ人々にご自分の栄光を現すことを喜ばれます。 イエスの誕生の時の羊飼いたち、アブラハム、イサク、ヤコブ、モーセ、そしてすべての新生クリスチャンは、神の寵愛を受けていましたし、今もそうです。 私たちクリスチャンは、モーセがそうであったように、神に選ばれた者であり、モーセのように、神は私たちすべての名を知っておられます。 私たちがこの地上で神の栄光を受けることを望むのは、私たちがイエスの賛美と栄光を示すために定められた民であることを、より多くの人々が信じるようになるためです。 モーセは謙遜な子供のように神を信じ、神の臨在を見ることを求めました。 私たちの周りの失われた魂たちのために、私たちが求めるなら、神は私たちの祈りに応えるために良いことをしてくださいます。

(ローマ 9 章 16-18 節)：「*したがって、事は人間の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。[17] 聖書はパロに、「わたしがあなたを立てたのは、あなたにおいてわたしの力を示し、わたしの名を全世界に告げ知らせるためである。」と言っています。[18] こういうわけで、神は、人をみこころのままにあわれみ、またみこころのままにかたくなにされるのです。*」

さて、聖書は、 **(ローマ 8 章 28-30 節/NASB)** に列挙されているように、**予見、定め、召命、義認、栄光**の否定的側面を明らかにしている：「神*を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。 [29] なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。 [30]*

神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」 私たちは、公然たる反逆を恐れてイスラエル人の赤ん坊を奴隷にし、大量虐殺したパロの卑劣な本性を見ることができる。 彼らには、そのような偏見に値するような態度も行動もありませんでした。 神の主権による宇宙の支配の中で、人間がどのように自由意志を主張するかは、私たちの理解を超えています。 しかし、神が何を言われたかは明らかです。 神がパロをアフリカと中近東の地で強力な王に任命したのは、*「あなたがたのうちにわが力を示し、わが名声を全地に広めるためである」。* それゆえ（ローマ 9 章 18 節）、神はご自分の憐れみを誰に示すかを**選ぶ神**であることがわかります。 これは反論や議論の余地のない発言です。 非常に熱心なクリスチャンでさえ、神ご自身についてのこの神の宣言を信じたくないと感じることがあると思います。 聖徒の皆さん、自分の感情に気をつけましょう。**イエスの犠牲によって私たちの赦し、神との正しい立場や地位を購った信仰によって義とされた私たちは、私たちが神に選ばれた民であることを「感謝」する以外にないのです。** 私たちが信じるという事実は、私たちが時の始まる前から神に選ばれていたことを証明しています。 これらの聖句によって、私たち人間の理性に不自然さを強く感じ、恐れを抱くこともあろうかと思います。 その恐れはサタンによるものであり、愛する天の父によるものではありません。

（ローマ 9 章 19-20 節）：「*すると、あなたはこう言うでしょう。「それなのになぜ、神は人を責められるのですか。だれが神のご計画に逆らうことができましょう。 [20] しかし、人よ。神に言い逆らうあなたは、いったい何ですか。形造られた者が形造った者に対して、「あなたはなぜ、私をこのようなものにしたのですか。」と言えるでしょうか。」*
パウロは、神に対する人間の 「自然な」反論を持ち出すことを恐れません。 前回のメッセージの中で（**創 6 章 6-8 節**）をお話ししたように：「*それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。[7] そして主は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」[8] **しかし、ノアは、主の心にかなっていた。**」*

教訓　その 2 もし神が、「ノアが神の目に好意を見いだされる」直前、あるいは将来いつでも、創造における神の御業の産物である人類を滅ぼされたとしても、神は依然として聖であり、善であるということを覚えておくことは極めて重要です。 完全な忘却と滅亡以外の人類に対するすべての対処は、神の慈悲によるものでしかありません。私たちの神と救い主に対するこの正しい見方は、ローマ人への手紙第 9 章をより真実で理解しやすいものにしています。

人間で言えば、画家の厳しい目から見れば、「下手な筆使い」や「だらしなさ」が多ければ、その絵を壊してしまうのは道理にかなっています。 さて、パウロは日本の伊万里にいるような陶工を例に選んでいます。 **（ローマ 9 章 21-22 節）：**「 *陶器を作る者は、同じ土のかたまりから、尊いことに用いる器でも、また、つまらないことに用いる器でも作る権利を持っていないのでしょうか。 [22] ですが、もし神が、怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられるのに、その滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐してくださったとしたら、どうでしょうか。」*

聖書のこれらの箇所は、神はこの世のすべての悪を滅ぼすべきだと訴える人々に対する素晴らしい答えです。 **(22 節)**「*その滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐してくださったとしたら*」滅びの運命にある人々に対する神の忍耐は、「善 」と 「悪 」を明確に示す世界を明らかにします。（**ローマ 9 章 17**）*で主がパロに言われたように：「聖書はパロに、「わたしがあなたを立てたのは、あなたにおいてわたしの力を示し、わたしの名を全世界に告げ知らせるためである。」と言っています。」*

(ローマ 9 章 23 節/NASB)：「*それも、神が栄光のためにあらかじめ用意しておられたあわれみの器に対して、その豊かな栄光を知らせてくださるためになのです。*」

それが私たち、OIC の親愛なるクリスチャンです！ 新しく生まれ変わったクリスチャンは、神に栄光を帰すことを全世界に表明します。 彼らはキリストへの信仰によって「変えられた」のです。 彼らは、イエスを拒み、悪から悪へと進んでいく現代の多くの*パロ*に囲まれているにもかかわらず、神がその力を示された証となるのです。 これらの*パロ*は「滅びる運命にある」罪人であり、栄光のためにあらかじめ準備された者たちの中で神の栄光を示すための道具なのです。 この比較は、**選ぶ神による**、まぎれもなく明白な発言です。

神が悪を地上にとどめておられるもう一つの理由は、悪魔のように明らかに破滅に向かう運命にある罪人たちが、***神の憐れみを受けるにふさわしいと思われる人々***、すなわち義認に向かう運命にある人々への警鐘、目覚ましとなりうるからです。 これによって彼らは救い主を求めるようになります。
注：私は「明らかに滅びる運命にある」という言葉を使いました。 本当に**滅びの運命にある人**は神だけが知っています。 私たちにはわかりません！ **私たちは神ではないのですから。** もし知っていたとしても、その知識を扱うことはできません！ イエスは、それを扱うことを私たちに負わせはしないでしょう。 なぜなら、（**2 テモテ 2 章 19 節／NASB**）にはこう書かれているからです：「*それにもかかわらず、神の不動の礎は堅く置かれていて、それに次のような銘が刻まれています。「**主はご自分に属する者を知っておられる。**」また、「主の御名を呼ぶ者は、だれでも不義を離れよ。*」

選ぶのは神、望むのは神。 しかしブルース牧師、神は誰も滅びることを望まれないというのはどうでしょうか？パウロが弟子テモテへの教えの中で、次のように語っているのを見ます。
（**1 テモテ 2 章 1-4 節/NASB**）：「*そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。[2] それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。[3] そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。[4] **神は、すべての人（thelo/Greek）が救われて**、真理を知るようになるのを望んでおられます。*」
神に選ばれた人々が救われるように、私たちはすべての人々のために祈らなければなりません。
この難しい質問に対する私の答えは、すべての人が救われることを望む神の願いは、時が始まる前に救われる人を選ぶという神の選択に優先することはできないということです。 **(1 テモテ 2 章 4 節/NASB)** のギリシャ語（thelo/Greek）は、このことを上記のように明らかにしています。
この動詞は**(1 コリント 14 章 19 節/NASB)**に見られるように、願望という意味であって、必ずしも何が起こるかという事実ではありません：「*教会では、異言で一万語話すよりは、ほかの人を教えるために、私の知性を用いて五つのことばを話したいのです(thelo)。*」この thelo という言葉は、どちらの箇所でも同じ意味にです。 したがって、神は人々が救われることを望んでおられます。 しかしながら、神が常にご自分の望みを叶えられるとは限らない！
私たちクリスチャンは今日、地上に存在する唯一のキリストの体なのだから、必ずしも神が定命されたことではなく、神が「望まれること」に自らを捧げなければなりません。 ローマ人への手紙第 9 章を書いた同じ使徒は、自らを「愛の奴隷」と呼び、今でもイエスの「友」であると言っています。 パウロは、すべての人が救われるわけではないことを知っていましたが、彼の負い目は神に対してではなく、まだ救われていない人々に対してでした。 彼は伝道の使命について、次のように語っています（**ローマ 1 章 14 節/AMP**）：「*私は、ギリシヤ人にも未開人にも、知識のある人にも知識のない人にも、返さなければならない負債を負っています。*」

したがって、私たちは神と「失われた人々」の「間に立って」、彼らの救いを祈りによって嘆願し、救いのメッセージを宣べ伝えるように召されているのであって、聴衆の中のどの人が選ばれていない人であるかを判断するために召されているのではありません。生まれ変わったクリスチャンだけが、**自分たちが選ばれた者**であることを自分で知っています。

教訓　その 3　私たちは全世界に伝道しなければなりません。 多くのクリスチャンは、ローマ人への手紙 9 章にある『選び給う神』の真理を拒絶します。それは、滅びの運命にある人々がどのような人々なのか、神だけが知っていることを、自分たちは見分けることができる、あるいは知ることができると思っているからです！ 私たちは、伝道するだけでなく、滅びの運命にある人々のために祈るように命じられています！

(ローマ 9 章 25-26 節/NASB)：「*それは、ホセアの書でも言っておられるとおりです。「わたしは、わが民でない者をわが民と呼び、愛さなかった者を愛する者と呼ぶ。（ホセア 2：23）[26]『あなたがたは、わたしの民ではない。』と、わたしが言ったその場所で、彼らは、生ける神の子どもと呼ばれる。（ホセア 1：10）」*

すべてのクリスチャンは、神が「わたしの民」、選ばれた民と呼ぶ人々です。 長い間、ユダヤ民族は異邦人を汚れたものとみなし、彼らから離れるよう神から命じられてきました。 しかし、ホセア書では、神は異邦人、すなわちアブラハム家の外にいる汚れた罪人の種族を指しておられるのであって、私の民ではありません。　また、同様に：　神は、ホセアにこう言われるます：『わたしは、わたしの民でなかった者をわたしの民と呼び、愛されていなかった者をその愛する者と呼ぶ（2：23）』。また『あなたがたはわたしの民ではない。」と言われた所で、「あなたがたは生ける神の子らだ。（1：10）」と言われるようになる。』このように、ホセアは、選ばれた異邦人の救いと、生ける神の子としての輝かしい未来を預言しているのです。

(ローマ 9 章 27-29 節/NASB)：「*また、イスラエルについては、イザヤがこう叫んでいます。「たとえイスラエルの子どもたちの数は、海べの砂のようであっても、救われるのは、残された者である。[28]主は、みことばを完全に、しかも敏速に、地上に成し遂げられる。」[29]また、イザヤがこう預言したとおりです。「もし万軍の主が、私たちに子孫を残されなかったら、私**たちはソドムのようになり、ゴモラと同じものとされたであろう。**」」*

使徒パウロはローマの教会、特にユダヤ人の聴衆に、イスラエル民族の歴史が不忠実の物語であることを思い出させます。 ユダヤ人たちは、パウロが預言者イザヤの言葉を引用していることを知っています。彼らは（イザヤ 1 章 21a 節/NASB）忠実な都｛エルサレム｝がいかに娼婦｛売春婦｝となったかを思い出すでしょう。　また、ローマ 9 章 29 節、イザヤ 1 章 9 節/NASB）において、***イザヤがイスラエルの子らをソドムとゴモラに例えています。***これは、は、北のユダヤ人国家イスラエルの完全な滅亡を警告しています。イザヤの叱責の中心は、貪欲さ、貧しい人々から奪うこと、そして主に対する公然たる反逆による完全な罪深い生活である。 しかし、神がイスラエルをソドムとゴモラと呼んだことは、神をこのような大きな怒りに駆り立てる腐敗のレベルを明らかにしています。　(創 19 章 24 節/NASB)で言っています：「*そのとき、主はソドムとゴモラの上に、硫黄の火を天の主のところから降らせ、」*　パウロとローマのユダヤ人聴衆は、もう一人の激しい預言者エレミヤのことを知っていました。 彼は同様に南ユダヤの国ユダに警告を発した。 これはイザヤと同様、神がご自身の民を*娼婦または売春婦の国として見ておられることを伝えている。*

イスラエルが 2 つの国になったことについての簡単なメモ。 この分裂は、ダビデ王がバテシバと姦淫したことに対する主の罰でした。（2 サムエル 12 章 9-10 節/NASB）：「*それなのに、どうし*

てあなたは主のことばをさげすみ、わたしの目の前に悪を行なったのか。あなたはヘテ人ウリヤを剣で打ち、その妻を自分の妻にした。あなたが彼をアモン人の剣で切り殺したのだ。 [10] *今や剣は、いつまでもあなたの家から離れない。あなたがわたしをさげすみ、ヘテ人ウリヤの妻を取り、自分の妻にしたからである。』*」 この〝剣〟によって、イスラエルは北王国イスラエルと南王国ユダに分裂しました。

それぞれの王国にはそれぞれの王がいました。 これらの王たちのほとんどは主に反逆し、民は霊的な淫行、霊的な姦淫の罪を犯して彼らに従いました。

神は預言者エレミヤの口に非常に具体的な告発を託され、ユダのこれらの罪を訴えられた。
B.C.600 年頃、預言者エレミヤはエルサレムの民に遣わされ、彼らが偽りの神々を拝むことによって汚された彼らの地、『汚された地』に神が愛を示されない理由を告げた。 そうすれば、民は神に立ち返り、自分たちの土地に祝福を求めるだろう！ エレミヤ 3 章 1-3 節）｛詩的形式｝では：
「*もし、人が自分の妻を去らせ、彼女が彼のもとを去って、ほかの男のものになれば、この人は再び先の妻のもとに戻れるだろうか。この国も大いに汚れていないだろうか。あなたは、多くの愛人と淫行を行なって、しかも、わたしのところに帰ると言っている。――主の御告げ。――*
[2] *目を上げて裸の丘を見よ。どこに、あなたが共寝をしなかった所があろう。荒野のアラビヤ人がするように、道ばたで相手を待ってすわり込み、あなたの淫行と悪行によって、この地を汚した。*
[3] *それで夕立はとどめられ、後の雨はなかった。それでも、あなたは遊女の額をしていて、**恥じようともしない**。*」
旧約聖書の律法では、売春婦は石打ちの刑に処せられた。姦淫も石打ちの刑に処せられたが、イスラエルという国家に対する神の怒りは、妻イスラエルに拒絶された拒絶された夫として、より強く、より深く感じられた。 神は結婚と、結婚につながることを意図した男女のロマンスを発明された。ダビデ王がバテシバと姦淫し、その夫を殺害したように、個人の罪に対する神の憐れみには厳しい罰が伴います。 しかし、彼の悔い改めは心からのものであり、ダビデと主の関係は回復しました。 しかし、前述したように、ダビデの罰は、彼が主とともに治めていた国家王国の分割であった。 つまり、主はご自分の国民によって汚されたご自分の国との結婚を表明されているのです。

この*主への失恋*は、1960 年代にアメリカで流行したロマンチックな歌のタイトル「*Your lips may be near, but where is your heart* 口は近くとも、心はどこにあるのか」を思い起こさせます。もしここに、恋愛関係の失敗、あるいはさらに悪いことに、不誠実な夫や妻によって失恋したことのある人がいるなら、神の気持ちがわかるでしょう。 そう、神にも感情があります。一人の男、アブラハムからイスラエルを創造した後、イスラエルと結婚されました。 だからこそ神は、ご自分の花嫁であるイスラエル民族の罪を表現するために、預言者たちに娼婦や売春の比喩やイメージを与えたのです。
このことは、パウロが、北王国イスラエルによる反逆と霊的姦淫、あるいは売春に関して、イザヤが宣告した裁きを選んだことを説明しています。
（ローマ 9 章 28 節）：「*主は、みことばを完全に、しかも敏速に、地上に成し遂げられる。*」
イザヤはユダヤ人たちに、彼らの霊的な姦淫が突然の裁きをもたらすと警告しました。 それは、北王国イスラエルと南王国ユダの両方において、ユダヤ人が外国軍に突然侵略され、敗北することによってもたらされました。
注：イスラエルの罪に対する神の怒りを見て、誰かが尋ねるかもしれません： ブルース牧師、私が罪と闘うとき、救いを失うのではないかと心配すべきでしょうか？いいえ。 **（詩篇 73 篇 27 節）**にあるように、「*あなたから遠く離れている者は滅びます。*」 クリスチャン生活は、信仰から信仰へ、栄光から栄光へと続くものです。 あなたが誠実に救い主イエスの近くにいようとする

限り、イエスの恵みはあなたにとって十分なものです。ユダヤ人たちが他の神々に近づこうとしていたことを思い出してください。 もしあなたが他の神々を求めることに戻るなら、あなたは危険に足を踏み入れることになります！
(ローマ 9 章 29 節/NASB)：「*また、イザヤがこう預言したとおりです。「もし万軍の主が、私たちに子孫を残されなかったら、私たちはソドムのようになり、ゴモラと同じものとされたであろう。」*」
ここで預言者は、神の正当な怒りがユダヤ人の完全な滅亡を意味することを、まるで彼らが 「ソドムのように、ゴモラのようになるはずであった 」かのように、悲痛に、そして真に心を痛めながら表現しています。

(ローマ 9 章 30-33 節/NASB)：「*では、どういうことになりますか。義を追い求めなかった異邦人は義を得ました。すなわち、信仰による義です。[31] しかし、イスラエルは、義の律法を追い求めながら、その律法に到達しませんでした。 [32] なぜでしょうか。信仰によって追い求めることをしないで、行ないによるかのように追い求めたからです。彼らは、つまずきの石につまずいたのです。[33] それは、こう書かれているとおりです。「見よ。わたしは、シオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。彼に信頼する者は、失望させられることがない。」*

イエスはあなたにとって聖所か、つまずきの石か？ 以下の聖書箇所は、キリストが天から降臨された時のユダヤ民族の状態と問題点についての使徒パウロの要約を裏付けています。 パウロが引用した紀元前 700 年頃の旧約聖書の預言者（**イザヤ 8 章 14 節/NASB**）は次のように預言しました。：「*そうすれば、この方が聖所となられる。しかし、イスラエルの二つの家（北イスラエルと南ユダ）には妨げの石とつまずきの岩、エルサレムの住民にはわなとなり、落とし穴となる。*」
すべてのクリスチャンは、イエスが私たちの ″聖所 ″であることを知っています。 聖所の定義（オックスフォード/Google 辞書）は「追求、迫害、またはその他の危険からの避難所または安全な場所。」 私たちは、自分の罪深さ、迷い、神の怒りに値すること、そしてしばしば、殺人鬼である悪魔に対してまったく無力であることを悟ったとき、安全を求めてイエスに駆け寄りました。 ユダヤ人は律法、特にモーセの律法、つまり十戒に逃げ続け、主ご自身には逃げることはしませんでした。 イザヤの預言から 700 年後、イエスが現れた時、彼らはメシアであるイエスからも逃げました。使徒ヨハネは、 **(ヨハネ 1 章 11 節)**で言いました：「 *この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。*」

私は 2023 年 11 月 12 日に説教しました： 「パウロは、全能の主なる神が弟子のアブラハムに地球上の新しい概念を教えられたことを聴衆に思い出させています。： **（ローマ 4 章 3 節、創 15 章 6 節/NASB）** ： 聖書は何と言っているのでしょうか。 アブラハムは神を信じたので、それは義として彼に認められた』。 だからまた、イエスが地上に来られたとき、神がご自分の名において厳格な律法行動を続けたユダヤ人たちにこう叫ばれたことが理解できます。 アブラハムの心は、生涯、神の愛と約束を信頼するところにあったはずです。ですから、使徒パウロはこのように結論付けました。**(ローマ 9 章 32 節/NASB)**：「*なぜでしょうか。信仰によって追い求めることをしないで、行ないによるかのように追い求めたからです。彼らは、つまずきの石につまずいたのです。* 」 それは、神が信仰学校の最初の生徒であるアブラハムに教えたことにまったく反していました！ 神が御子を遣わされる頃には、この状況は改善されるどころか悪化していたのです。
(1 ペテロ 2 章 8 節、イザヤ 8 章 14 節/NASB)：「*「つまずきの石、妨げの岩。」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからですが、またそうなるように定められていたのです。*」このように、パウロとペテロは、イザヤ書による「すべてはイエスについてである」という預言を聴衆に思い出させています。彼はつまずきの石となり、攻撃の岩となり、 *そしてエルサ*

レムの住民にとっての罠となります。 また、パウロもペテロも、**選ぶ神**を信じ、**定命する神**を信じていました。

(ローマ 9 章 33 節/NASB) ：「*それは、こう書かれているとおりです。「見よ。わたしは、シオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。彼に信頼する者は、失望させられることがない。」*

私たちに御子を与えてくださった栄光ある神よ。 この国の厳格な伝統がそうさせているのかもしれません。 しかし、そんな文化は忘れましょう！ 神の前での恥に比べれば、恥など何でもないからです。 これは恐ろしい考えです！ しかし、地球上のどこの罪人であれ、彼｛イエス｝を信じる者は、辱めを受けることはありません。クリスチャンは、決して恥をかきません。
(ローマ 9 章 33 節/NASB)は、全能の神の聖なる御座の前に、恥じることなく、イエスの義だけを身にまとって裸で立つことを指しています。
ヨブが**(ヨブ 1 章 21 節/NASB)**で言ったように：「*そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、（この地上での生活の後）裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」*
(ガラテヤ 3 章 26-27 節/NASB)：「*あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。[27] バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、**キリストをその身に着たの**です。* 」
私たちクリスチャンは、地上の人々から恥をかかされるかもしれないが、私たちがイエスを信じるように選ばれたのは、選んでくださる神によってであり、天国の神の御座の前に現れたときに恥を感じることがないことを保証しています。
私たちがユダヤ民族の罪を見てきたように、あなたは神の国の一員であると感じますか？それとも ″霊的売春 ″の一員であると感じますか？選ばれた者として、神の望みを叶えたいでしょうか？

ローマ 8 章と 9 章はクリスチャンにとって何を意味するのでしょうか？ それは、イエスの福音を、隣や地球上の聞く必要のあるすべての人々に広める確信です。神は、罪人がイエスを呼び求める機会もなく滅びていくのを傍観するために、私たちが選ばれた者であるという確信を与えてくださったのではありません。 私たちは、使徒パウロのように、イエスの福音を聞かなければ滅びていく罪人たちに支払うべき負債があります。 私たちは、神が定められたことを神の御手に委ねなければなりません。 私たちは、「救われようとしている人たち」に手を差し伸べるために、今すぐ行動を起こさなければなりません。 ローマ 8 章は、イエスが約束されたもの、すなわち力を私たちが持っていることを意味しています！ **（ローマ 8 章 38-39 節）**で語られているように、イエスはご**自分の教会を建てる**ために、地獄の門、すべての堕落した天使、諸権力、諸悪霊に打ち勝つでしょう。 イエスは **(マタイ 16 章 18 節 AMPC)**で言われました：「*ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門(黄泉の力)もそれには打ち勝てません。[あるいは不利になるように強くなる、あるいは不利になるように持ちこたえる]。*」
愛するクリスチャンよ、イエスは OIC の通路を歩き回り、心を調べ、祝福し、罰することはありません。 しかし、もしイエスがあなたに *「あなたの心はどこにあるのか？」*と尋ねているのを感じたら、イエスに告白してください。そうすれば、主はあなたが最初に*信じたときに与えてくださった新しい心を新たにされる*でしょう。

ローマ人への手紙 8 章と 9 章は、信者でない人々にとって何を意味するのでしょうか？ 使徒パウロが宣言したように: **(1 コリント 1 章 23 節/NASB)**：「 *しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでし*

ょうが、」そして (1 ペテロ 3 章 18 節/AMP)：「*キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。*」
ああ、不信心者よ、イエスがあなたのために十字架に釘付けにされ、血を流しているのを見ることは、つまずきとなるのでしょうか？それで十分ではないのでしょうか？ イエスはあなたの罪を贖うために、あなたの身代わりとなって死んでくださったのです。 これで十分ではないのでしょうか？それとも、自分を神のもとに導くためには、血を流し、苦しみ、死んでいく救い主が必要だということを認めることにプライドを持っているのでしょうか？ すべての人が頭を下げている間に、このプライドを拒否し、救いの運命を受け入れるために、天に向かって手を挙げてください！はい。私たちは、あなたの決断を少し待ちます。 あなたのために祈りたいです。

祈りましょう！

REFERENCES

AMP - The Amplified Bible Copyright © 2015 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

AMPC - Amplified Bible, Classic Edition (AMPC)
Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

MOUNCE, Mounce Reverse Interlinear New Testament & Mounce's Complete Expository {English-Greek} Dictionary, The Mounce Reverse Interlinear™ New Testament (MOUNCE) Copyright © 2011 by William D. Mounce. Used by permission. All rights reserved worldwide.
"Reverse Interlinear" is a trademark of William D. Mounce.

NASB - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995, 2020 by The Lockman Foundation. All rights reserved.

NLT- New Living Translation *Holy Bible,* copyright © 1996, 2004, 2015 by Tyndale House Foundation. Used by permission of Tyndale House Publishers, Inc., Carol Stream, Illinois 60188. All rights reserved.